

南ア・エコパーク駅をもつリニア新幹線構想 リニア新幹線駅をもつ南ア・エコパーク構想

案
国土・森林・住民会議
2016 平成 28 年
5 月 17 日

1. 工事用や非常口用に必要な斜坑を活用し、スイス山岳観光的に日本列島の名勝化を図る。
鉄道王国スイスの開発に学び、南アルプスとリニア交通一体の国際山岳観光政策を構想する三大都市圏の人間が大自然へ瞑想の30分で到達する山岳観光の世界唯一の新機軸を出す東京・大阪・中京7,000万人が3000m級南アルプスを訪ね、心と体を洗浄活性化させる
2. リニア新幹線の設計思想は主として以下の三つに集約される。①三大都市圏間の相互速達性・利便性を一挙に向上させる、②三大都市圏集積の一体化連携、相乗効果をねらう、③巨大地震対策等の代替交通の安定確保の三つに集約される。しかし、需要予測や工期、開通期限、事業収支とその必要性に問題があり、かつ巨大電力消費、電磁波、地下水流等、想定できない環境問題に不安要素がある。
3. そこで工事上、安全上、必要な斜坑・排土口・安全口を活用し、別次元の設計思想の付加により南ア山岳渓谷への深山・母川回帰ルートを設定し、日本列島にしかできないリニアによるエコパークレジャーの需要開発策の長期ビジョンが加われば収支と開発リスクの両面で先の懸念は払拭される。神を恐れぬ大自然大工事するなら1,2,3,4の夢を追求すべし。
4. 20年後の南ア・エコパークとリニア新幹線の両立に避難口駅を夢の入口として準備しておくこの設計思想の合体(上記1,2,3)は国際観光競争力を高め、治山治水発電・地球物理学基地ともなる用地は全て特種東海製紙の社有林25,000ha、うち国立公園2,800ha、3,000m級13座連峰特種東海製紙はリニアをもつ日本の屋根として社有林を経営資源の高度化を志す
5. 本案は大東京と大自然の両極対比を柱に日本列島の生涯学習自然博物館大学構想とする両極端がリニア新幹線でクロスする異次元交流の新価値の創生、逞しい日本人を育成する高層ビルや鉄とコンクリとネット社会で育つ20年後の人間が真の健康日本人になるように山岳大自然、秘境体験で心身の清浄化、柔軟化、強靱化を図ることを目的とする
6. 南ア・トンネル本坑の長さは10.7km、残土150万 m^3 残土合計は360万 m^3 である非常用斜坑2つ、残土76万 m^3 、これらの活用で1,2,3を実現する設計思想の意義は大きい参考=スイス国鉄2986Km・私鉄2100km・山岳鉄道157km・ロープウェイ894Km
7. 本構想の初出論文は「メガロポリスの森」(1973年刊)で、大井川源流域を大都会の森として保全整備し井川線・大井川鉄道も存続し南アルプスをそのまま生涯学習大学とすると提案
当該地域の構想は、メガロポリスの森、マウンテンパーク、エコパーク、本案と続いていて提案実現には特種東海製紙、住民、知事、市長、下流市町、国の順で合意が必要である
8. 南アエコパーク・リニア新幹線を観光立国の超目玉に、外国人4000万人の1%が利用見込む山岳大深度地下工事、工事中施設の活用、工事博物館とリニア輸出に有効活用できる本案の背景地は南ア・エコパーク・ユネスコ登録(2014)、静岡市など3県10市町、30万2千ha日本と静岡県は富士山と本案構想の課題化と構想実現研究により2つの決定的名勝をPR